

兵庫県姫路市

【人口】 533,909人

【面積】 534.43 km²

【一般会計】 2,210.00 億円

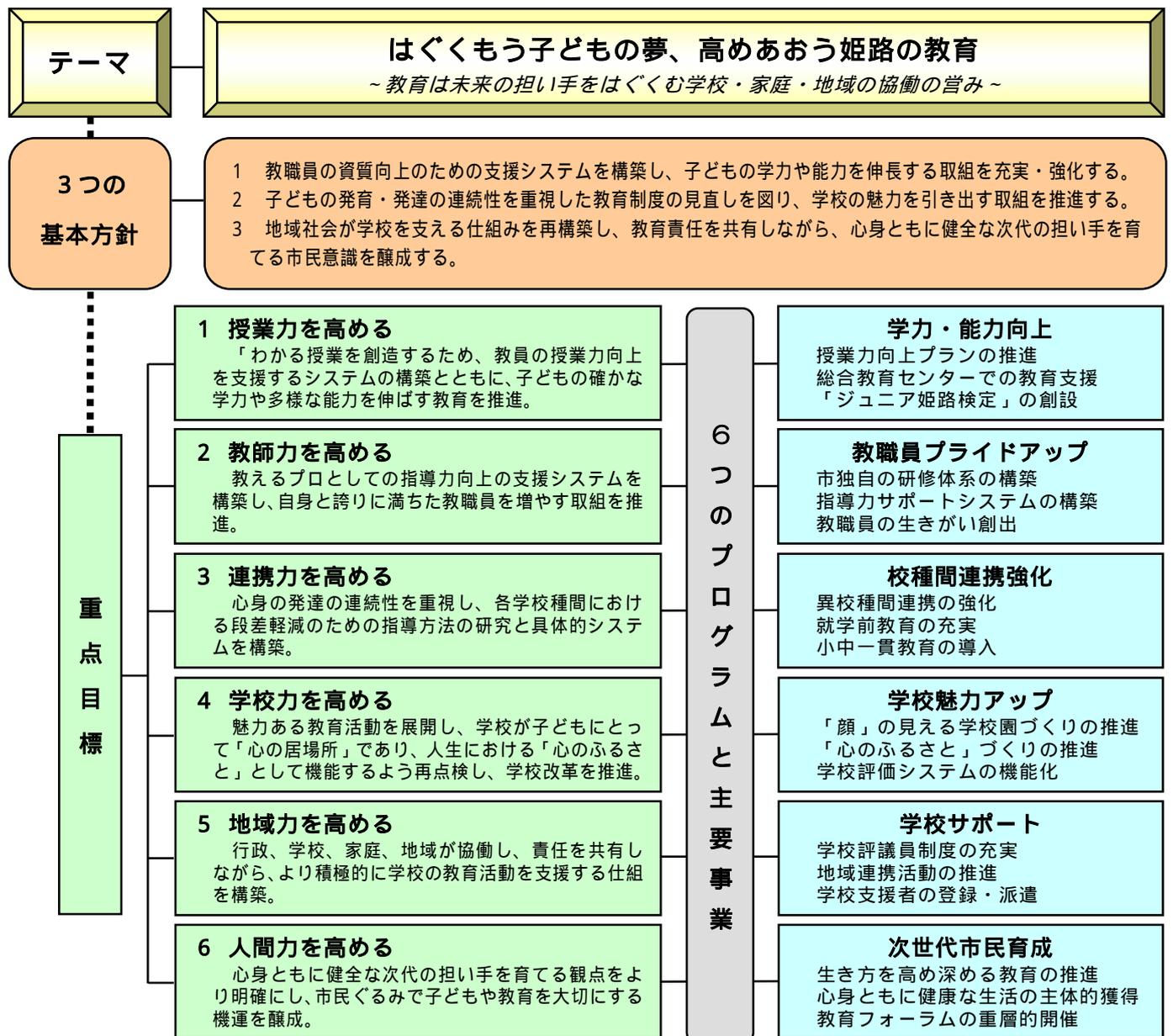
視察事項「小中一貫教育について」

本市における小中一貫教育に向けた調査の参考とするため、今年度から全市内で連携型小中一貫教育を導入している姫路市を訪問し、モデル校として先行的に小中一貫教育を取り入れている姫路市立白鷺小学校・白鷺中学校での取り組みについて、行政視察を行った。

・小中一貫教育推進の流れ

平成 20 年 12 月に策定された「魅力ある姫路の教育創造プログラム」に定めるプログラムの一つである「校種間連携強化プログラム」において、異校種間連携の強化、就学前教育の充実、小中一貫教育の導入が主要事業として掲げられ、小中一貫教育推進モデル校を設置し、新しい義務教育のあり方を提言することとなった。

魅力ある姫路の教育創造プログラム (平成 20 年 12 月策定)



・モデル校（白鷺小・白鷺中）における校種間連携の取り組み

姫路市中心部、姫路城近くにある白鷺小学校・白鷺中学校は、姫路市内で一番の小規模校であったことから、教職員定数の関係上、全教科に対応できるだけの教職員が揃わず、免許外申請による対応によって授業を実施していた。このことから、地理的、人的要件において校種間連携による小中一貫教育の取り組みが比較的行きやすい条件が整っている白鷺小・中において、小・中教職員の授業交流を実施。

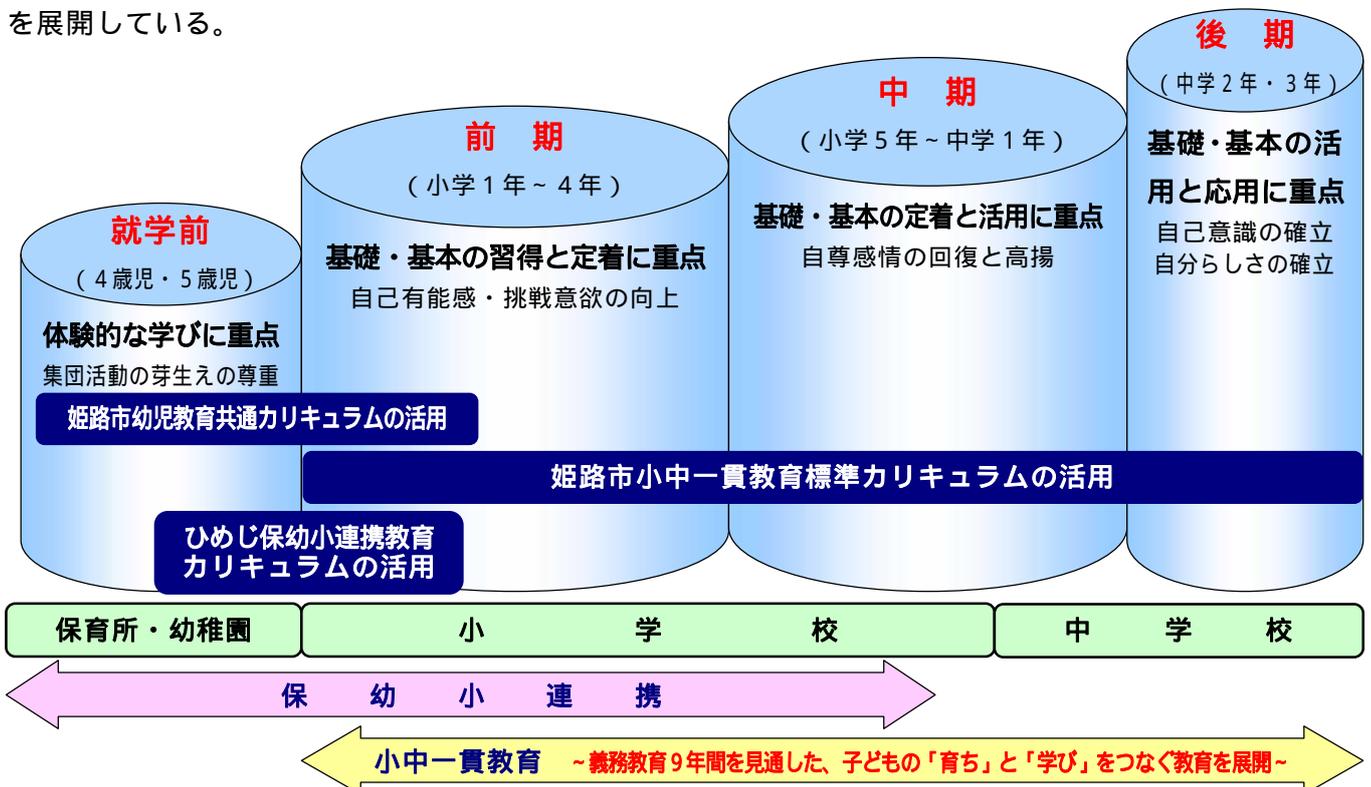
具体的には、中学校の当該教科の免許を保持する小学校教員が中学校で授業を行ったり、中学校教師が小学校において中学校保持免許教科の授業を行うことにより、免許外申請による対応がほとんどなくなるとともに、個々の児童・生徒が抱える課題について小・中学校の教員が早い段階で共有することができ、指導力、授業力の向上につながっている。また、児童生徒も、学校文化の違いから生じる「中1ギャップ」等の解消や緩和、教師との関わりの連続性による強い信頼関係の構築等についても、成果のねらいとされている。

小中教職員の授業交流

小学校教師が中学校へ		中学校教師が小学校へ	
理科	中1	外国語活動	小5・小6
数学	中1	算数	小6
家庭科	中1・中2・中3	音楽	小4・小5・小6
		体育	小6
		図工	小5・小6
中学校の当該教科の免許を保持する者に兼務発令が可能		小学校の免許を保持していなくても、中学校免許教科の授業が可能	

・保幼小連携と小中一貫教育

姫路市では、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を図り、小1プロブレムの解消とともに、子どもの「育ち」と「学び」の段階に応じた豊かな体験（学び）を大切にする活動を行っており、「つながり」をキーワードに、小中一貫教育も含めて子どもの「育ち」と「学び」の適時性と連続性を重視した指導を展開している。



・委員の考察

品川区と違って、小中の壁を残しての一貫教育を行っており、ことばの力を基盤にして「わかる授業」の創造と「家庭学習力」の育成を柱に、自学力を向上させることを目標に取り組みされていた。メリット、デメリットは品川区と同じ状況であった。

小中教職員の協働による9年間を見通した一貫性のある指導

前期（小学校1～4年）・中期（小学校5年～中学校1年）・後期（中学校2～3年）に分けて中学校教育を見据えた小学校教師による指導、小学校教育を踏まえた中学校教師による指導が相互連携・融合（チームティーチング）等を通して児童・生徒の不安感の軽減等に生かされている。

小学校教職員は中学校教職員の専門性を、中学校教職員は小学校教職員の板書、発問等の決め細やかな指導法を学び、お互いの良さを生かした指導を行うことで授業力が向上。

保・幼・小の連携強化など校種間連携の推進、就学前教育の充実に取り組んでいる。

保育所は教育委員会の所管でないにもかかわらず、就学前幼児についても連携教育に位置づけられているのは見逃せない。子どもたちにかける市の期待の大きさを物語っている。幼保連絡会の開催や教職員研修の合同実施などに現れている。

姫路市でも品川区と同様、小学5・6年生と中学1年生を1つのグループとして扱われており、幼児教育を含め4つのグループ分けて教育されているのは参考になるであろう。

品川区と姫路市の一貫教育を視察したが、いずれも取り組みが最近のことであり、実績や顕著な効果は数年後でないと現れず、実験的な試みの段階であろう。わが市においてもいろいろな取り組みを試してみても良いのではないかと思う。高美が丘小中学校のみならず、豊栄小学校と豊栄中学校を連携型一貫校にすれば、現在も豊栄中学校と賀茂北高校は連携型一貫校として連携教育がなされているので小中高の連携教育の試みができるし、豊栄保育所をこれに入れれば保小中高一貫教育ができあがる。正しく合併前の豊栄町が取り組んでいた一貫教育ができあがるものと思われる。そのような思いを強くした視察となった。

小中の施設が分離しているため、連携を取るのに無駄な時間を必要とする。

小中の授業交流を行うのに、小学校の先生に中学校の教員資格が必要であるため、教員資格の問題を改善する必要がある。

中1ギャップの解消を目指した取り組みをしている。また、生徒数減に対応するために小中一貫教育を取り入れている。東広島でも、高美が丘中学校を中心にモデル化の模索、または、校区の見直しで対応するのか検討が必要だと思う。

姫路市の小中一貫教育は、品川区の伊藤学園とは全く異なるスタンスであったが、思考しながらモデル校を推進して頑張っていることはよく伝わった。本市も限りなく姫路市に近い形で推進していくように思えた。